

一人ひとりを大切にする具体的な保育

10

外遊びと 園庭について

ユリア

愛知県碧南市・へきなん保育園園長

1 はじめに

前は、「流れる保育」という言葉が使われていましたが、ここにも1つ誤解を招くことが隠されています。

『「流れる保育」をするために何かをする』と考えると、違った保育になってしまいうです。毎日変わらない日常を繰り返して、一人ひとりと丁寧にかかわっていくと、子どもたち自身にも生活の見通しが立ち、結果として、流れるように一日の保育が進んでいきます。

繰り返される日常が大切にされるといふことです。

2 「担当制」って

本誌の連載で、これまであえて使わないように意識してきた言葉があります。例えば、「担当制」という言葉です。他にも、「コーナーを作る」といった表現は避けてきました。

「担当制」については、こうした用語を使うと自分の担当になった子どもたちを抱え込んでしまう保育士の姿がよく見られます。「私の子どもたちから食べます」とか、「私の子どもたちを連れていきます」とか、こうした考え方をしていくとクラスとしてのまとまりが分断されて、落ち着いた空気を醸し出すことが難しくなるようです。

1つのクラスを担当する複数の保育士は、そのクラスの子どもたち全員に対して目を配ります。そして、食事と排泄、衣類や靴の着脱の時には、基本的には同じ保育士が関わります。

しかし、こうして進めていく時にもまた落とし穴があります。「私、トイレを見えています」「私、食事を見えています」「私、遊びを見えています」というように、場所ごとに担当するといった少し意味の違う担当がされていることがあります。

一人ひとりの子どもを具体的に大切にするために、毎日同じ人が関わることで、その子どもをより理解し、必要な手助けをしていきます。担当する子どもを抱え込んで、何でもしてあげることとは違います。また、集団の中で子ども同士の間わりも大切な要素で、すべてバランスが大事だと思います。

3 「コーナーを作る」って

遊びの環境を整える時に「コーナーを作る」という表現も避けてきました。

以前にもこのことについて触れています。「コーナーを作っています」という時にも、どうしても子どもを囲い込んでいることが多いように思います。そして、それぞれのコーナーに用意したものは、それぞれの場所で遊ぶというルールになっていることが多いようです。

でも、どうしてその場所で遊ばなければならないのでしょうか。「保育士がそう決めたから」ということでしょうか。



●上・30年もののジャングルジムに登る1歳児
下・園庭で自分の遊びを見つけて、集中している子どもたち

少し話がずれますが、「おままごと」のところに、どうしてもブロックを持ってきてしまう。どうしてもいいのでしょうか」といった質問があつたりしますが、おままごととのところに「鍋に入れたりする具材」となる素材（例えば、チェーンリングやフェルトで作った野菜等）などが十分に準備されていないのかもしれませんが、そこで、子どもは創造力を働かせて、ブロックを様々なものに見立てて、遊んでいるとも考えられます。すると、「ブロックはブロックのところまで遊んでね」とはいえないかと思

ます。
もう一つは、その子どもの様子から、「具材になるような道具や素材をもう少し準備したほうがいいかも」といった保育士の気づきにつながっていきます。子どもの姿が教えてくれるということです。
ある園に伺った時に、保育室が牛乳パックで作られた50〜60cm位の壁で区切られ、とてもたかさんのコーナーになっていました。どういう考えで室内を区切られているのかを伺ったら、「子どもは狭いところが好きなので、小さく区切ったほうが落ち着

く」と考えてコーナーを作っているということでした。

子どものことを真剣に考え、実践しておられる姿勢が素晴らしいと思いました。しかし、私はその保育室に入った時に「落ち着けるな」とは感じませんでした。そこで「少し壁を取ってみませんか」と提案してみましたが、「今までいろいろ考えて、こういう形になっているので」という返事でした。

「それはそうですね」と思いました。それぞれの心が動いて行動できるので、いきなりいわれても実行することは難しいことですね。

ところが、その日の夜、保育士たちと食事しながら話す機会があり、その時に「あなたたち自身も保育室にいて、居心地がいいですか」と尋ねたことが心に届いたようで、なんと次の日の朝、その園に伺ったらほとんどの区切りが片づけられており、先生たちが笑顔を向けてくれました。

夕食の後、みんなでやろうと盛りあがって片づけられたようです。本当に驚き、感動しました。

「急に環境を変えて、子どもが戸惑うのではと心配したけれど、子どもたちは落ち着いて、より遊びに集中できています」と話してくれました。そして、「自分たちも、



●上・どこから登っても飛び降りてもよい“岩山のつもりの遊具”
下・三輪車用のアスファルトの道。ルールは1つ「一方通行」

このほうが部屋としていい感じですよ」と話してくれました。

区切りを整理したことで、子どもたちにとっても玩具を見渡せるようになるし、保育士からも子どもの姿が見やすくなったようです。壁で区切るのではなく、ラゲマツトなどで区切りをつけると、子どもにとっても「この玩具を出したらすぐここで遊べる」とわかりやすく、動線的にも無理のないように整えることを提案させていただきました。

4 外遊びについて

室内の遊びの環境などについて述べてきましたが、外遊びについてはどのようにしているかを述べていきたいと思います。

以前、自園では目に見えないルールがたくさんあり、3歳児はジャングルジムの何段目までしか登ってはいけない、もちろん登り棒は、3歳は見ただけでした。最近ふと気づくと、1歳児がジャングルジムの上の方まで登っていて、私はびっくりしてしまいました（もちろん、保育者が見ていま

したが）。

園庭には木登りできる木があります。見ていると、子どもたちは自分の登れるところまでしか登りません。自信のある子は上まで登りますが、そこまで自信のない子はちゃんと自分で考えて、登れるところまで登って降りてきています。

子どものしたい気持ちを大事にしてやりたいと考えています。安全を重視するあまり、どんどん遊具がなくなったり、様々なことが禁止されてしまうことには少々疑問を感じるところです。とはいっても、安全第一に違いありませんが。

そうした思いから、どこから登っても、どこから飛び降りてもいい岩山があるといいなと思いい、岩山のつもりの遊具を作りました。そのまわりにはクッション性のあるゴムチップの床を設置しています。ささやかなものです。

また、三輪車の道があったら楽しいだろうと考え、アスファルトで幅1・2m、1周約50mのサーキットを作っています。他の遊びを楽しんでいる子どもたちの間をぬって三輪車を走らせないので、これは安全のためにもよいと思います。

5 園庭作りについて

「園庭の中に様々な素材の地面がある」

- ①水遊び場。奥に見えるのが小さな小川。水流は、その奥の池からの循環式
- ②この日、年長児たちは園児全員分のホットケーキを一日がかりで焼きました。そしてで、自分たちで作った園庭の木の実のジャムを添えて、テラスでおやつタイムです



①

という考え方も持っています。

6年前に緑化して池も作ったのですが、川があったらいいなとずっと思っていました。が、遂に昨年、小さな小川と水遊び場ができあがりました。川と水遊び場は、基本的に、遊びの時には自由に入っていることになっています。

園庭は広いほうで、とても恵まれていると思います。現実には園庭のない園もあるでしょうし、もっともっと素晴らしい環境で楽しい園庭を整えていらいっしょる園もたくさんあると思います。どんな環境の中で

も工夫して、創造的に整えられたらいいなと思います。

やせた砂地の園庭ですが、片隅の畑でわずかな野菜を作っています。また、ブラックベリー、ブルーベリー、山桃の木があり、年長児が実を収穫してジャム作りをしています(ささやかなものですが)。

6 おわりに

こうしたことは、全国の多くの園で取り組まれていることです。



②



●トロッコを使って田んぼの土作りをする年長児たち

以前、スウェーデンで開催されたOMEPの世界会議に参加した時、スウェーデンの園でもESD(持続可能な開発のための教育)の取り組みの1つとして、コンテナガーデンで野菜を育てている園を見学しました。これもきっと、日本の多くの園では当たり前のように取り組まれていることですね。